開倫塾
塾長　林　明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。先週、若いお母さんが車中に小さい子供をおきざりにして食事をしていたことをお話しました。このようなことはよくあるようです。放送をお聴きの皆さんはおかしいなと思うことがあったらその人に注意をして欲しいと思います。おかしなことはまだありました。先日、そば屋に行った時、小さいお子さんがスパゲティーのようにフォークでそばを食べていました。驚きましたね。また、別の日にそば屋に行った時は、若い夫婦が赤ちゃんのオムツテーブルの上で替えていました。そしてその後、そのテーブルの上でハイハイをさせているのです。周りのお客、店の人、私もびっくりしましたが注意できませんでした。私もここで注意しなかったことは反省しています。注意の言葉はとても言いにくいのです。どうしたらよいものかを考えたいと思います。

しつけとは、美しい立ち居振る舞い、敬語表現を含む言葉遣いですが、これを教えるのは家庭であるというのが私の基本的考えです。本屋で草思社出版の「あたりまえだけどとても大切なことー子供ためのルールブック」という本を見つけました。著者はロン・クラークというアメリカの先生です。この人は大学卒業後、ハーレムの学校から優秀な人を多く育てました。その功績が認められ、３年位前 28 歳の時にウォルト・ディズニー社主催の全米最優秀教師賞を受賞しました。子供のために 50 位の基本的ルールをつくりました。大人の質問には礼儀正しく答えよう。相手の目を見て話そう。誰か素晴らしいことをしたら拍手をしよう。人の考えや意見を尊重しよう。勝っても自慢しない。負けても怒ったりしない。誰かに質問されたらお返しの質問をしよう。口をふさいでくしゃみやせきはしよう。何かを貰ったら３秒以内にお礼を言おう。貰ったプレゼントに文句を言わない。人の成績を言いふらさない等です。このようなものを参考にしながらしつけについて考えるのも大人の大事な勉強だと思います。子供さんも自身で美しい立ち居振る舞い、敬語表現を含む言葉遣いについて考えてほしいと思います。